俳風柳多留　三十九編

へ9
1147
38

38

門へ9特
號1147
卷38

今年は初ふけそめる柳
ヒハ為毒の佳句なり
為ふし果やあるこの不
子花月の俳士等引
柳史の評大イなるもの

東海道の三十次
千代田の城
芳春三十丈
天保四癸巳の仲春月

里松宗評

鶴昌寺武義坊今松の屋を
風風も月小三度八月をぬし
公家二人系と孫とをたゝむあり
武の子義矢むこ女つことし
古歌ゆ八〳〵面〳〵おの
松〳〵らんて詠〳〵んゝるかり
面白く面風よあふ中納云

孫川
シ八
仝
筆山
面夕
仝
香白

地ハ子代ニハ系代ヨリ結産ニ
石女ヲ植ても実のる事非 俗
教政の位ハ万人の動ろいとの
淺墨ヲ元源 浅のふちうら
盲目の一ツ目ふかるこてちよさ
ち地ヲ由来引寄の残をぬき
左ヲ所植るのとて歩のをき
吉度の俗て至要きりめける
老ふまりを乳を滞ヨ法

ミクト
柳川
菱素
横好
笠山
マイタ
面旦
笠素
マイタ

一

老見流ヨそるの好を横貫ヲ至
金屋でこれハ軍も面ふ
借りのもひ掃がきむと盗ヲ来ル
武ひ見ヨまれ業つきをくどいる
帰ヲて古ハ〳〵さいる四日ニ
変ものヨ美ヨの変る桃の山ホ
妾ヲ母ヲ〳〵られヲ物と畜生ヤ
大門を〆〳〵ハ二言さ文左ニ
不屈ヲヲハ引せ丸菱ハ良

横好
吉秀
未学
吉秀
面旦
秀矢
笠山
玉吉
横好

二

人魚さと呂ひち後人中卯まる　横好
下女の伯付きお竹大日如来　孫川
なぐ一ッ貞女ろかむる弥子さ　壬幸
おまあげのてうちん出る大こえう　香央
地ごくへでろとく鬼よりもおどひ母　蓑考
孫川の月まさげけよ切りうける　笠山
けいせん化して娘とあるむつうさ　柳西
云ろすがたさふ初舎ハ海をそめ　有幸
不二下而尻とかくとが草卯る　喜秀

安措疾へ男呂利牛房をやいて付ケ　横好

川柳評

天元の一ッ三海で立たまひ　笠山
渡しまる今ハさくらのもの渡り　柳西
赤きんを脱し迷戸世まおり　孫川
よお娘まく祢名とらの肉裏離　笠山
りう娘入り町役人もつまそもキ　仝
大えんまやおそろ元ト龍道ち　仝
香やの忠をさくらの本よ記く　香央

あんぞうさがおまたうと乐天　菱中
形改の三位ハわんのひろいもの　菱喜
桃の月裏でゑ川うまる稽ぶれ　春史
云かの主君もぜんまいさいくゝ　柳西
うきよぞのぐれ品川へいんきょゝ　西夕
よゝ家の去手ゝ高ぶで筑西上れ　喜秀
お気の人何方石もひざへのせ　里私
ぢゝねを寄さぜんと出家老　孫川
ゑ川をぶゝ見せ先でうくふ西所　盛壽

三

柳小栗てゝおく方い高ぜねめ　菱中
ぢゝ前ゝ女房ゝ歩のひかを名　シノト
出家ゑハいゝあくゝいかゑ　西夕
よゝ所ハ世をすて人のりく所　シノト
十府の菅菰より本蒲がもて　孫川
業師ちと業好へんドゝこまり　赤学
変子夫人をけいぜんゝ李延年　里松
ちれぬゑ川番所さ西と汁り出キ　柳雨
盲目の一ロ目ゝ家ゝちゝさ　学山

ろ〳〵和尚俗の法義を吹てゐる　義中
大坂ふ寺とゝのゝ出来さげか　仝
ふごけ者人まかゝ失ッ中九て敷　孫川
か松ゞ名高ゝて離の針ゝり　笑山
吉慶の俗てゐ人丈切ねけ乱　蔓亂
是利ハ酒や彩田ハ古弁一乐　雨夕
ちやだも乱ゝいも慶〳〵なる廿八　西旦
阿房ゑきゝ人ゝ枚九十一ヶ日目　柳西
京橋一ト〳〵居赤ひとも世　香矢

四

ふるの切ゝりそのこゝ雷のこゝ嗅ヒ　マイ夕
去のゝすめ化で思ハれいゝ不　里松
切ゝ冊を紙屑ゑゝい破布ゝ　香矢
門ト杖のゝやゝを足切ゝ大屋名　孫川
打糸金ゝ〳〵ゝ〳〵ゝふ去ッてゝふ　笑庵
名吹〳〵ゝゝゝゝ女房大あゝし　西夕
今戸ゝゝ人ゝ鬼を釜へ入レ　芙才
居ゐれるゝもちゝゝ男　シケト
旅のゝ男の外子細ふ一　西夕

八ツ〻ら物を考るこゝハ物てゝ
ま[illegible]りごとおこゝろ悪子雲〻尾之
越下産(ゆり)ゆ[illegible]ゆけ吹らまる
病ゝとり志ばゝ伝法のうゝをり
打糸金尺門さ吹くさうかさ[illegible]る
色〻〻ゝ姫なのいゝとおらおハま
大尾
形りもして一子字遠ハ木の子之
是正サか天ゝが下知恥ハ美之
松の枝ゝ[illegible]るのゝ[illegible]ひを[illegible]ゝ

有幸
シクト
志多
里松
仝
香矢
里松
孫川
太幸

箕山評

御簾子ハ男子の徳乃風雲ゝ
黄金ゝ桜ハ法度と花乃兄
江戸結ゆの里教訓ハ毒と毒
一下声ゝ市成ゝのおゆがなり
末世迄打目ゝしき加〻衣
小金井の橋ハ玉ゝ疵でゆゝ
武ゝ〻打ゆ山法様ハ鬼門ゝ隔ケ
乗ゝハ織ゝハ[illegible]ゝまゝと安ゝち

是楽
シクト
巾布
柳百
仝
巾布
孫川
麦弱

魂を多ぶしきさぶぬ聲引手　竹子
問ぞ申し〜求かるるときの笑〜さ　多人
我うせこの朱ぐきいひ〜國さの　中布
毛を垂キ出ぶ〜弟子ゲ屋〜ふ〜　つ柳
伝丟八七書ゐ秀イ〜四書ゐもも　多人
格代を二度むぐるる男女あり　心雀
法弟の仕切小松屋初メあり　お学
見書付を取り拾校の幕を打チ　ア幸
佛つゝハ力士武門ハ禅師なり　幸弱

面の手を出し〜二見のあ後り　雨旦
海鹿小号踊付あるいて〜幸　吉程
姫乃麗拾〜退キの人〜よ　幸弱
坊主より振り袖拾ハ無ゝなり　横好
意の幸毎ハ武り生月を走よ　爰中
浜路を付〜居ふを女種の浦　ア幸
里へ寄〜氣カ稼ヒ長吾ム実毎数　つ柳
橋左立葉飯を焚〜礼ハ吸ビ　斗九
ゝあ丹ム字ハ走〜〜息子遠ゝ　里私

皆出るゝ子宮文でし出るゝぬ不ッ　　吉彦
目小さへ孫鬼かゝの出る大海日　　赤学
振上ゲゝ吉刀乃ゝ夕西法月立夜　　西夕
参法乃奥の手陽四で聲ハ出し　　武幸
吉武枝時小ゝきゝハ通辯あり　　菱亮
矢ゝ元りてい之出一のたゝとゝなり　　五幸
拶陣ゝ吉人ゝ鍬たんかゝあり　　昆東
矢の使出ゝも平乳お法昌亮　　柳西
吉弟は伊陀本弟度の西かり吉　　吉彦

御世七ノ七

朔日より左右吳服の二面なり　　マイタ
大キおゝりゝ多ゝ呂布ハ　　横好
モウ武里ホ小ゝ江戸入りゝ沢り　　沼人
晦日の月を見ゝ人ゝと武西借ゝ　　西旦
記ゝ塚晦日ゝ月の出ゝ訴コ　　ミタト
ゝ町の田地秋他ゝかんゝじん　　西夕
者板ゝ伝りゝ方ゝ場立ゝ　　菱裏
先ゝ模ゝ小ゝいゝ五ゝ松て切り　　ヨ松
鼎西ヤ枝ゝ小ゝ初ゝ出れ　　仝

大川を〳〵と言ふ中〳〵小賣て居る　柳面
きんさん〳〵節をきかせて〳〵げちな色根　麦豹
村出合柘植の小柳心さして来る　横好
ゑをえら〳〵場末の蕎麦やゝぶ付ケ　玉章
天竺へ波海武文が松〳〵繁り　横好
おゆひ出〳〵さハ碁盤で境論ン　中布
首をふり〳〵ふせ祇の内をまり　志夕
もゝたまもゝ月さうふで牢　孫川
苦〳〵賣ちんと伊さう下女笑ひ　里松

御世七人

作〳〵ハ中ゝやらん〳〵を爰で淫キ　西夕
無の中笑さん出〳〵乳母屋森　玉章
大尾
箱入りの男を写多て森　ミクト

川柳評

大名の揚げ代をたくむ大子先キ　斗丸
都の元〳〵位も世〳〵伊勢　孫川
御用勢〳〵虎が〳〵小繁り　玉章
動んなん〳〵何〳〵さを女出家老　孫川
四十七由来下小侍ふ　忠　左

年〻第〻花の江姫乃礼　笠山
右ハ不成就日〻加〻ひ〻び　柳西
表櫂〻〻不二ヶ月ヶ隠福業　中布
吉二枚を〻〻〻考ふ通舞台　蓑表
と〻の尾ハ孤しして立て御建立　孤雲
矢は使来て平九郎か伝葛亮　柳西
皆ちるとヶ十字文でも呈〻ぬ雨　吉春
本文小扇風瑞書幕　対事　柳雨
職人を五百吹〻〻来就まる　当人

月明〻ふし〻〻〻客星稀なり　五華
姫の藝を〻〻退ぞへ人〻〻〻よ　春弱
後ろ〻付て居〻〻長櫂の浦　五寿
碁〻〻〻歩して菓の系をつて吸付る　吉春
女形五外をするいと弥　乎
花人と後ろ〻〻居りまさと安雪　玉幸
鄙ちりちんが〻〻ハ風も吹せ〻〻　春弱
隻の鉢をさ付ぞり洗ふ餅乃湯　斗丸
姫の化ものめき見ずの門を出来　布乎
　　砥川

筋骨をぬうまでも和光を立通し
モウ武里ゝして江戸入が帰り
奏点ゝ姫首の産人出る中ゝ
楚ゝふ呼ゝなんぞふのたゞゝ
左鼓打手ゝ引ゝてゝ打タセ
大根武者ゝを付き神ゝの加ゝ持
矢取でゝ二国一手のたゝゝあり
白ウ鴻女護の御人をゝゝ
振上ゝゝを乃五世月ゝふ変出し

シハ下
当人
妻鈴
横好
マイタ
孫川
形孝
星私
白タ

武年目の古刑子ゝふ記れ申り
ゝの男小姫子ゝの内ゝとん芝ゝ
後家ゝこけゝふゝの中ゝひゝ
かまぶこや浮世の中ゝ
独情をゝ引ゝ書ゝもやゝ
ゝ引ゝ秘な技ゞん女房の猛あり
射彦ゝゝ虎ゞゝ原二位
我七ゝゝ基屋きハむゝ国ゝの
坊主より振袖おケゝ無ゞあり

マイタ
志タ
義井
左孝
義中
左幸
玉幸
中布
横好

市正殿さまの家来なり
百年より資朝むすめ
四十の田地秋帆うかんどん
おなじく月もちりてもとの月
夜明してちぎるハ寄ちか鏡やこ
元ちゝが京一きりまちハ
ふかくたるもの月ふうまちで窪
言ハ知ぬ人ゑと答ゝ叱らるる
ちゝ浅黄五つめ月つめ祝

門柳
赤学
百夕
長乐
一徳
左幸
孫川
寿約
マイタ

枝よ植ゝ教ゝくハさろバせ 教
胡蝶ゆり言ちにまん西をいゝ後
柳橋舟ゝ〳〵と志うりつけ
紀ゝ紀文内でハ糠味噌汁
里言ち本琴不ゝ長藝去ゝ世
おん子ゝ長れを西へ持糸屋と
目ハ月へゝ鬼ゝこの事ゝ大海日
里後やで書力なりの汗をう紀
恋ハゝ信屋を毋すゝ先

愛嬢
横好
竹子
孫川
斗九
門柳
赤学
一徳
孫川

けいさんの葉をやきて茶にかやの
大根葉 就きんわどにはめりど
村方合板柱の小柳もさして茶
野原り方方日長暮の二面ちり
方をえ〳〵塔長のそばやいぶ竹
後〳〵にて〳〵ちを焼てる外トも屋
鼎ませ白めて〳〵ふなど〳〵初もいを乳
新造をおりちやかに居して拾ひ
杜若婦〳〵かつきるよが帆て白

寿約
茶才
横好
マイタ
玉章
マイタ
里松
志夕
孤雲

好かト女ちの後やかとにあるする
服の屯ちを所をする 居 ひ
旅の留ちまちる羅なき女房之
昌月やハ徳ちの新ハ知〳〵ぬあり
きく〳〵一見せて追ける方名の
ハ行ト女茶〳〵紙のちりをとり
お茶マアちの名を日ちれさら
神をやちが今神さ後てかどのり
七月なく〳〵のふとをりさ

横好
孤川
志夕
里松
孤川
柳白
里松
作子
全

それぞれ[illegible]やなどを[illegible]

大の字[illegible]ト女を押[illegible]

大尾 [illegible]

中布
[illegible]
シクト

評丸

[illegible]の戸を投て戸[illegible]ぬ御代と家
あり[illegible]れな山九合ふハいてえう星
屏風とゝ花をいやゝ[illegible]ゝ名あり
歯のいゝ母を持[illegible]ゝ孝へいり
芭蕉軍てもさせ[illegible]る師匠[illegible]
やゝふもと云て山吹折[illegible]る
信玄公ハ名將と加利[illegible]
あり[illegible]ちゝ[illegible]と英ひ

芦樂
孫川
孤雲
麦弱
玉雪
麦弱
柳[illegible]
孫川

接座位詩も碁も管ぬ男なり　夷弱

夏夜の寒くなる屋をたまるぞち雷り　花夕

三歩出て雨も降るとてないハ水ゆ　等山

みたらん仲人ら来て指を掛　西夕

面白いのいあるでまるぬ婦人出て　青弱

何を姉さんら桃の木を抜中ゐ　巾布

いくつ小指ふみさむ雨ん降り　西夕

知る人の何ご成見付ら三度笠　西旦

夏仲ハ赤ちゃ　たれぬ女帝ん　芙義

柳世七ノ十四

至尺世の指抜ふ形るお汁の子　玉壺

油うりでも仕出ゐ道　三　仝

乳母ら尻ろうたを勇る杭叡や　西旦

ある松世間ハ廣いあ　やハ姫　孫川

若光ち築地ごと十女忍そる　青弱

赤て月ぴん金百疋と奉加帳　青雨

作り寺ゐでいぞ　き形ま　孫川

進上中　首代ハ二子　疋　等山

い所へ来ると　せん言を八まる　孫川

源代寺持の名を名ふ人せ　玉壽
時雨かゝるこの八重咲のむの梅　孫川
けちゑ助六者座をあちて居る　音韵
座き虎ゞ出しと竹子拵て逃ケ　一徒
大神宗乳母あいちゆと〳〵　孫川
少ハ知〳〵てかゝア今度ゆ　仝
脇人ど〳〵成ぞ〳〵入玉將ちハ裸　見宗
歯き走り成走の〳〵走り安足弦　雨旦
猪の集古移と少てハ山師来る　春史

柳世七ノ十五

雪のちゑ坊ゞでかける面ゑき　玉壽
馬助ハ烏東ゝ姫成少利　孫春
馬の尾乃きゝ〳〵さふ毛ゞ〳〵一の谷　孤雲
振尾迄〳〵来ゝ毛ゞ意乃奴〳〵　花夕

川柳評

大おんも大走ゆうゞんも寅の方　一徒
市利運の古稽ふ忘どの留人ゑ　本賀
私ゆ〳〵浮めゝ〳〵ゆる玉家老　孫川
ゑゝ〳〵沼戸ふゝ人も紫堂　マイタ

四つ[illegible]れが山九合まゝ高くもうり　　孫川
天に新に孫しがそうの姫乃礼　　仝
屋形一つも条まぢ下結ふまるぞ　　仝
名相いう巣おとひかきつぢさ　　笠山
死命〳〵こ里岩ハ麟ゑ申とのさま　　孫川
結ゑ申〳〵〳〵深の桜こふ梅乃ぬ　　花夕
孫云成目の出る御ゑ伍子晋する　　竹雀
ゆ不務ゑ三ゑ山巣〳〵巣いまゑ　　一徳
面白き長ハ日本は地ゑて　　笑山
梅世七ノ十六

年の内小春ハまゑうり高ゑ歌　　横奴
乃音結御用乃外を肩車　　一徳
田家ゑ拓（キリウク）掘（ホリ）裾をなぎ菊ハ　　孫川
さ松さゝこ乃ゑ結流ハ打あ医　　西且
乃音を持て文覚伊豆ハ為　　去雪
智ゑらまこうゑ人の場と儀とる　　笠山
地鐵鬼乗櫻の庸ゑと為て出る　　竹雀
ゑ[illegible]ゑを志ゑ仮ゑ孫ゑ　　志賀
でんゆりて蛍を乗いもり清し　　孫川

佐野の渡り楓ゞ[illegible]を染せる所コ　芭蕉
毛氈て遠い[illegible]百歩のこゝろ　本賀
形造て居〻赤人の上へ[illegible]　マイタ
楊枝又勢毋[illegible]　玄章
[illegible]　横好
一句の鍵日本[illegible]　去雪
吉原ハ[illegible]の業[illegible]　仝
猶南から[illegible]　柳百
[illegible]　孫門
[illegible]

柳世七十七

魏の宮へ[illegible]を呼び寄る　一徳
猶も一句つゝて[illegible]女帝　孫川
歯ぎしりを志の[illegible]安見弦　百見
時[illegible]白[illegible]味ハ[illegible]　紙雲
加[illegible]で[illegible]と嫉の口[illegible]ぬい　雪矢
ゞ[illegible]ぬいて今[illegible]　孫川
一[illegible]一[illegible]　雪矢
加[illegible]咲仲人つゞ[illegible]　竹雀
夏[illegible]を[illegible]と金[illegible]破き　仝

我家より近く行くかと程繁師　柳雨
進とは　そ代は二千　足　貧山
櫓の本とて成抱る深野　音弱
浜樽で外科をしいて大きなる　夕幸
手履元むぐ褌をかくみ　住糸
目と耳い只さかはは綾がいり　如雀
ふ元寿さが這入られ松の門　笑山
いとと寿とせん言きくまるる　保川
四つまんと盃でちんは入彩り　夕雪

柳世七ノ十八

五段義也少々嫌もいぢりたし　里松
ちまりちを先キへ立ちと松洞ち　笑山
孫教さ〻と彩〻めんで小云く　去雪
けちを助六者屋をみちて居る　春約
商が只言と刀りさいき毋〻也系　保川
とい新〻〻〻てかく〻ア今廣つ〻ぜ　仝
大尾
腰〻を松曲を法く也地天ン弟　横好

千恵寿評

三百〜減めば徒義もあイとの　千之
ゆ極よなるとそんなに長ふまる　古寿
家老職居りて形りも國うま　孫川
つま指りさ知てさ為よふすこ川　亦乗
子面の色も女帝ゆ〜　岩屋
只寸公ハせ〜なく味噌をみる　乃旦
孫迎ひ寸人を出して寸きてゆる　志夕

柳世三十九

寸〜立流よ速く汗を掛　中布
様の留寸ゆ〜ん女ハ石よ嫌り　里私
柳指ゆ〜りて寸を楽し出し　中布
及物を寸〜男る美城又ん　孫川
数入ハ海さう孫らまやせんと起　門柳
いやゆ〜ハそれてゆるうと片眉毛　古寿
八月の皮きり所ゆい故日ゆり　孫川
孔子乃涙此人の様へおち　本賀

酒池肉林の中へかの国家老　孫川
面白く恍惚の体　仝
松の木の枝より大きな雨傘より　華山
新造の粗しを実登仕立て　仝
伏見うらの女郎屋より遊　玉壽
いなをてもめてをしかる男　横好
四日ふてをきも拘る皐月画　画上
二度庶の坂屋を女房とたのむ　孫川
柳樹七年

面白く恍惚の伝夫の然る俗子屋　横好
新吉の謡ふ和せを度ケて　孫川
俗をふ方男まさりの遠　横好
男女の中浅ふ〳〵ふ酒　巾布
番をのの鯨ハ好きう鯨やい　孫川
酒ひの酒ちで知る吉傳　孤雲
名代ハたをを登まて来ふ　玉壽
味噌用人ハあめるさ男あり　柳画
年寄の皐ハ目ふの徒ふ立　斗丸

さくみかもなく日さしてる夏の月　五華
豆腐屋の時斗の中ふ出るこ　義淀
横ざけのさるハ素人の鍋こ　如花
徒拍ハ人附の婚を祝ふ中う　五安
かつて大を吹てる彩世帯　孫川
あれうとこ初まてをるとト女ぬ色　五秀
蛇だけ人うう初やさと以麦の中　孫川
大の積のとろ以問さつ月孚　中布

川柳評

柳樽七ノ廿一

みぬとうこ八月うう海八拍うう　孫川
焼ケ墨初大名お敷生会　花夕
ちとせ年一日書初ゆゆ正葉初　如花
神と儒者迄(問答ス通稗ガ)　五壽
花の寿今ハ人を妖ケうう　孫川
大名ゆ法仕ものさせる中ハ米　五秀
弓箭を立川てふ引ケ月ら宮　孫川
むりのちまよ遠ハ言尾こ　笑山
出家老曲ゆさ不ハ腰ぢうう　孫川

八六

皮膚をあらてたるゝ事なし
いろ松ようとき人ぶ房ぶまゝ
武義世ハ徳武ものも房こと
死生命ときとゆきこゝ
会稽の恥をきよむる之令目
ものこと立流ると云て汗をき
樹をかゞけさ思イ女ハ在ものり
至新ハこゝの房も号ハ会民
酒池肉林の中へ出る国家老

柳サ七ノ廿二

孤雲
五房
一徳
笠夕
赤糸
中布
王私
マイタ
保川

伯氏ハ成ゝ女房ゝ出ル糸
八月のかゝきり暑ハ後日之
理ゝ出人ゝ脇中の人を女房ハ
徒然なるはゝ日ゝ人へぶゝ生
死ゝいゝ事のひゆゝ人ものき
仏法の大ハ和尚ハ法ものも
盲目ハ人の上ゝ立ハ坐さ
なのかゝり清田義者でハゝき
ハそのきゝ女房ゝ出ル

中布
保川
仝
愛者
本賀
千之
一徳
赤糸
岩鳥

法師は只何の恨を稚子に
かつて火を放てゐる彩世界
赤みと紫信濃の薩摩型渡海
書き写す大ど好奇人を驚ろかす
おちでは福弥こ生家山の弥
彩々紅葉して積てゐる初冠石
胡麻の葉は安房に生れたる
めんぢで咲くを資料とつよ尽
器湯殿宮本流を生ずる

御一休七ノ廿三

蓋屋
福川
五幸
横好
五安
つ柳
ア私
孤雲
蓋屋

味噌用人はやうやうて男形り
あ級者位牌出てもそ斗り
息子の大病は俄に病こつ紀
狂気の論不ゆさと廣ケして
きれい好キ病ふはまでるきる好
楼の月よどやうやうことをいみる
指系人生で月とまる極さと新
サア王を立るがくとゆせるぎ
少変らつてと藝者のあい声

柳雨
蓋屋
五幸
福川
仝
本賀
ア私
中布
福川

大名の上ケ下ケをする三河丁　志夕
鉦鳴りまへまちと思へ志のび入り　芝浦
世を捨て弟ハなれりて居ひ　中布
角ふ柳子ハなるもけふ山桜ハ　孤雲
まさう男子ハ子のなるの玉子　孫川
宴て三面かこてみ面をてくれ　本竹
鉦ふるのうと思へハ花を出てけり　てイタ
けつ元めうと無変身こうら　孫川
小女子ふ志そふ面へ　雪松

柳世七ノ世ロ

下子ふ丸子更井鉢をぬきんでる　ふ乐
ふ子ふ子ふ子ふ　柳面
てんこちら延と桜張元毋くし　孫川
かのものへうれ女をそへ小男や　去秀
大尾いつかぎるかを乃後ふ洗ぐび　春鳥

文日堂評

一對のよふにかすかに秋と音　吹雨
月ハ今松より出て松に入り　去来
古池ハ世界へ記くてすみれ咲　柳亭
二つなん山三ツ竹の響高き　雲鳥
鶏の手に園扉を拍く長閑　竺山
旅ゝ雁の声ゝ神いさめ　仝
白氏文集ハ大自ふ和歌の形　孤雲
定紋を狸へくらん里ハ近　素鵝

[illegible]

[illegible]
[illegible]ふ里ふして海ゝ遠ゝ家老　知雄
蛙ゝ腰折ゝ雪ハ友ツゝ添ゝ　仝
一子孫子の冨士ハ近江ゝの毋　横好
[illegible]ハ[illegible]紙冊今ゝなりし　里松
[illegible]ハ第壹のよふに[illegible]山筆枝事　玉壹
忠盛ハ里子が家[illegible]ゝ　孤雲
[illegible]ハ車義仲[illegible]　水賀
[illegible]ゝ[illegible]ゝ山ゝ居ゝ　去来
[illegible]山

玄徒ハ三度又人葬ニ会ノづりを也　是示
味のよさそうか尉光斗同在侍後石シ　横好
一下第の杖ニふ孫ニ又人ぬこ　吹庵
一下婚ニよ代をナハめる新鑑　平梅
重ナ飯ま一合也おまんや　如雀
祖ニつが形紋前ニ新ニ言　横飛
如屋の仕てハ婚ニ扶がおり　仝
あるこでナ義解ニる白嵐　豆人
雑岳ニ宿孫ニ弟ニまり　後丸

御世七代八

ぎの宗ふうこも中のよれ蓮の宗　吉柳
本書で書宗ニ流（シュエキ）紙一実し　吉家
三日ニふく此ふあるる　秀宗
一下足遠ひ名代の日おしを　西夕
ひ年ニぎんヒへのうとしぎれ　マイタ
柳千弦後ニ屋を揚べこ　玉幸
斉貨宰ニやまるもある月　後丸
後ニ名ニ弱人の八武ニ　下松
義ニ孫市入ニと海月門ニ船ケ　広光

[illegible]　柳多
[illegible]神人珍を付ると[illegible]　笑山
[illegible]屋八百人傘やい六命を[illegible]　集雪
い[illegible]嫁の気首ゑすいて[illegible]　千之
六人[illegible]服を[illegible]　凡彩
[illegible]　星松
[illegible]でも居るかと[illegible]　秀史
[illegible]の[illegible]　志象
[illegible]て唖の[illegible]　竹雀

柳批七、廿七

[illegible]の伯母いつ[illegible]ハ例の[illegible]　秀史
[illegible]手を[illegible]る安[illegible]　志象
年[illegible]　仝
[illegible]を切[illegible]　志夕
[illegible]の[illegible]を[illegible]居[illegible]　仝
[illegible]を[illegible]居[illegible]　吹庵
[illegible]小[illegible]屋[illegible]居乃[illegible]　豆人
[illegible]石[illegible]を[illegible]て雲(スグ)[illegible]　笑山
[illegible]乃化ケを[illegible]　牛笑

春日之傷の金りゝ立てゞ〳〵
〳〵〳〵と立て第後函
其泉は桂光で桂生ゞ〳〵
二男里方のきん也玖理もち
作者れて神至し〳〵さのく安名之
城王を春子上花の第名へより
大和国武八月よさとり出来
月〳〵里と強ちまゝ庭で一つ駄
湯へいろ美人市〳〵強弟餘也〳〵び

横好　出幸
九鶴　春新
有長　桂函
秀矢　柳函
里私　全
有長　義陵
志夕
廣橋
出幸

御世九代

女房も岩戸を開〳〵伊勢の留ち
仕指を宮小兄弟さんと申屋
山伏をいぢり月〳〵城掛〳〵七夕
小女地口ふの中て出るさんる
烟の部合ひ七夕ゞ元祖あり

川柳評

富士山の名字ハ代ま解ひ
毒蜂翼長ふ形へ常地付て居る
四方体猪の形へ詩歌石〳〵

國家を実ふ大臣の片腕なり　敬亮
家川敬〻味方で一ぞう出来　嘉祥
老の味方桃の天〻二人あり　歩賀
桃川より引返し引寄せ　横好
何の山よ不老不死の完璧　嘉寿
もてあそぶ事の余　未学
其矢を射せて物痛ひ口上　孫門
白馬の軍なれば〻クワダ人事　中布
玉家を治の中ウ八ぢ〻ふる　孫門

横の面を裏ウ　笑雀
報又へ八手型型人世へ不型ふの人　嘉寿
武の弓弦信也弓引ッ矢ぎ　吹庵
るの間言小資事大事ウ入り　中布
出不事義仲川を味ウ　嘉寿
ようとと亀型ふて第横酒　九楽
味噌をなめ〻時新も敵敵　中布
沈言小部〻酒を酒ウよ逃ウ　笑雀
浅ぎ〻八支度も型も江戸型入る　横飛

ぶれもんかい毎年ごとに当り
芸をきる中うまかたる料理人、
外郎もこの時ごろ仲間
会使ハ三度見て食ひつせ
魯智深ゥ飛りくいりもんぐ面
孫子ゥ立てやレたぐ毛く
朱子学ものけぐ〜島子の所之
地ちきりをハ常舞の男ゥ
形造いをきゥ孫ゥ傳ゥ

赤豆子　西丘　孫川　光乗　横死　孫川　竹在　茅院　孫川

柳世七年

市学で吉家ゥ京後一変し
浪河丁人別性も入込ハ
私で器ヲ拵よかる由境
三途婆王ハ在のゥハ焼ハ
和尚球筋しをぐうる時イ浦家
形変ハ三別河を来ハ生ハ
町人ゥ見ゥハ形造ひゃめ
掛合ゥうをを下手ゥ家
原左ゥ書の中ゥ焼かれ

吉家　孫市　都元　横好　竹在　玉喜　九彩　西丘　竹在

おいらんの四郎へ反、晴のかぶ屋　西五
支たらお楯よ辨ふ四不揃子　マイタ
みるれのむ家ふ祝よ通ひつ免　ヲ稱
新ゆり寂寞（シクバク）として話中江云　中布
雲の飯屋一金を切まんや　ヤ雀
辭ふ〳〵ち紙の蓋が鼻へ彦　孫川
似せ体を言て呵〳〵猿芝居　吹庵
合ふ〳〵ゆりや納豆笑を出し　ヤ雀
手ぬぐうさ屋ふ中枝をつき　五雨

柳世七世

面白て亞のうこて也謹ふる　ヤ雀
六年ふて立ッち偽居ハ新毋ふ　孫川
指ちぎり蛙る馬ふ安さめ合せ　横好
丈〳〵孫屋ヒが敗のりと筆磨　孫川
丈トいふ〳〵呂ヒ人ヲ丈為〳〵　ヲタ
敷ち饒てやるのうこの立和睦之　中布
女房の擂子を丈人ゆ〳〵ちる　子之
居ひ花の留ち居ヶ丈見塚　孫川
名イ山を卜女昆布丈の帯ゆる　義浸

朝ぢ評ふ志ぶ〳〵と初鰹　玉章
材多信大ウ手望ちうげ強を　仝
七ヶ根清涼〳〵と鐵脳まる　孫川
味のよさ地ふる願ち平目を侍徒に　横好
女郎のかつ〳〵け癖よ似て疲ち沈　孫川
手制元と号〳〵鰹油の実ふつ　仝
而のかゝア芳のムセ　玉秀
徳利と象ル と座てつるませる　横好
一千翁の老ふ志ふる俗産移　孫川
極手〳〵極〳〵ふいのハ下女ゲ尻　玉笑

雨旦評

御代よ絶〳〵かゞひ〳〵か蔵の白米乳　吹庵
庵舎の間と云イ手家吉産業　西夕
鄭声と利口を勝む國都老　孫川
花の名所物自〳〵ふ所庵元　谷水
勅撰ハやの字勅若ぞ世まこ　春豹
御用札風風呂ま〳〵麒麟角　芋洗
八百九彩陽ふ亜ふ國づくし　マイタ
だろ〳〵と云ふと云位著せなげ　如雀

ゆきうゝ如春色老ゝる松の姿　柳馬
大阪盛眉間の白毫　本誠尼　孤雲
出家先ト唯一の新ゝさまる　アイタ
一ツ屋の月ゝ澄ムなゝ安イこゝの　元禄
月ゝ如六ゝ一ト夜を指さゝ人　アイタ
酢のゝゝ東夷と云家ハ云イ　四柳
孔明と正成初事を思ひ出ス　出雲
エレキテル出藻ハ　素弱
知てか点の主人り猿指之里　柳馬
柳卅九卅三

石ゝ肝ハ大き如ハ　素為
イヨ盛なゝ　素弱
皆なゝハ生ゝ居ゝ　有音
死生命ゝ有て七ツ日も七ツ夜之　牛賀
月ハ極なゝ雲盛ゝ　志夕
弱紙を為ゝ王ハ本結ち　里程
九里山まんゝ不二ゝ　出雲
二潮寺張程ハ曲ゝ　雅孤
鶴の小云ゝ九頁乃盛ハ水　芋洗

汐舟の沖を漕ぐ人陳和尚
ゆくゝゝ赤風又曹操まぶ付ば　マイタ
赤見物曰ゝとゝ行ずゝ第部ゝ　秀貞
霊龜の年を かぞへ〳〵 礼を述　名壽
扨ゝ其在原ゝ そめる袋で　仝
所新東ゝゝ四て富士を横ふ　中布
目わハさやうふ人〳〵 祝ぐゝ孫子ぐゝん　子稱
孫を宮ゝ 祝ゝと ふるゝと 五母云イ　孫去
庶の古物 山百ゝ 夢ゝ 紅ト を 帝　孫川
柳世九世四　横好

幽霊は生辞ふ ゆゝ 面と　兼弓
村は流いつまて 世をむ ゝ川てる　名壽
わざとこ 呼びふ ゝ ふ 名白　孫川
勅言で又れば 楊貴妃 ゝ　五壽
ゝり 快ふ 無常ハ 孫と 極を 去キ　柳世
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ　子稱
キれ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ　柳白
ゆゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ　子稱
組入の 袍ゆゝ面ふ 神 汐の口　如者

一どきて百て第ゑいて　女　孫川
注を漢ときて蛍八西をぶて是　仝
瀬でし出さらで沿川ゑ右居沢　笠山
定服と立流よ逃て鶴宜を云　五幸
風の形くを主へとたり四孔　寄是
ゑ安の借り右刀先できり出る　松花
義の竈へ女房乃加西を入主　見乗
借りが五ろとハ云ハ五で美五　菱表
光りかぶ安ハ洞壷と女房あり　一徳
柳井九井五

左ゑのつれかくきくしけちゑむ　和里
士ハ服ま入切ろとさなみ足新　孫川
形改のよしして立川切居し　西夕
大十ゑ主り神漱戸物丁でゑる　五幸
ちり附く白服ですゑ異乳ゑ色　中布
ゑ月ま義いくく川思川泥りと　孫川
加ぶちやぶ孫ゑ言張を引邑　早私
運のゑく咳牡丹鍬でゑゑる　牛突
鯉並の飯斗り嗜ゑ居ハ　孫川

俄のつまゝ懸乃んとそなたさがり　西折
信濃おどろ〳〵大軍喰留　丁拍
思ひもよらぬ法より行ふく　猿山
かけかゝるも先る度で使て来り　貴鳥
うるゝけ城主ふさる姫の比奇之　丁柳
箱入も捲主もある雛乃市　柳軍
五のんぎんど孫なゞ〳〵もそかゝ屋　孫川
並ぶ色さわハ何ゝどもト女造り　猿山
革黄の女房ゝおゝひ桃じゝ　柳西
柳井女六

旋命丸と云てそつ都　茶屋　和里
出ての首尾一ト つまげてどうり　樓好
一ゝとゝ〳〵新〳〵白ゞちゝ女造り　看長
ゝ紅腹帯が延ゆ　赤く走ゝ　西夕
ゝかぢり陰の家で法家花　い柳
大尾　ゆ将ハ一ト夜で膳をつゞきゝ　丁拍

川柳評

蟹留さ月の入ゝ蔦き第ゝ丸　武蔵
待伏要ハ八百八丁　鞍ムなり　孫川

星野井の何て有大名小路也　川柳
あひより娘へさびしい魂入り　久笑
飛鳥山てゝ出ましごつしと通り舞台　マイ夕
神様まんの一ッ门る相手がくば　柳栄
すり鉢ゝ小言今稀有の洗濯し　仝
新道も未ち天文己其わ木　柳丙
駒組は世の小王手八本鉄寺　里栓
足元のあるんちく陶朱公　如青
浅観堂で盛積に富士事かし　里稀
柳卅九ノ卅七

家り詰への高ふ手出世る二宮神　仝
小きくし一帖十六あ三んぞ寿ハ　ミイ夕
神儒仏ごさきませきもそゝく見せ　霜笑
十二才へ岩さ嫁いまねるむけの穴ハ　斗丸
おん家相かまりませと西宮り　如雀
姫皇帝八尺あしく飛より　里私
尚まし見ハそのめ残して出世する　何し
浜辺も川窓とハよび何か里　雨楽
娘ある艮娘のおんさ美き男る　木笑

三十八 和四六 五四三

昆弟の所より大石山の地
方へ ひとり歩へ〳〵さびしい魂なり
獄中の山々到底〳〵通舞云ィ
神祭まんのうりるあるべし
まるはるふる今稀なる法師〳〵
於道ち赤ち更ま已来あり来
弱弱もあれ小王子い本能寺
是元のあるんちちゝ陶朱公
江戸堂ゝ〳〵稀小冨士ゝ
柳世北ノ世七

つ柳
久賀
マイタ
柳果
仝
柳西
マ拙
ゆ者
マ稀

なり弱〳〵の五ふ子ふぼる二家中
小きゝ一情十郎あるうんざゝ
神儒仏ごさまゝ〳〵もるかゝ見せ
十二まへ岩ゝ〳〵ぬいまれるむゆのゝハ
おゝ家柳かまりませと西中
姫白髪帝八天やゝ飛ゝより
尚まゝ見ハゝ〳〵のめ祇て西芋
須辺も引岩ゝハゝ〳〵ゆゝ重
姫おる東姫のゝんゝ麦を見る

仝
マイタ
雷矢
斗九
ゆ者
マ私
ゆし
亦乐
ホ賀

八手並紙一ト吞ふる蛇の目と　芋洗
泥と右敷ク風呂人の寄せとある　菱素
かりゝあるとゝ以ても敷てさゝが河る　仝
蔦籠淀ぶんこをかゝハ仕ふ連し　菱渡
旦さゝ旦とゝまれて磐籠神ク　物茶
笑ひてまゝ人おみやげふ武タ色　孫川
新根分切ふの　狐素
走まれゝ新文湖夏買て居る　孫川
雄の目て寄手吉伐あぎ　志タ

柳林九ノ廿九

家伯ち鼻人かゝゝ云茶為り　横飛
ロ不得手自分曲ふまかりいて　巾布
胸ゝの中ゝ小鐘ハつゝ手ふ新　碎引
ゝゝ日ハまれゝ女房を産氏去り　い柳
月ハ極ゝ貧窟ゝ鳴出ある　志タ
病イ大ちれと遊ケて居人　百里
鳴ても出さゝ字浜川茶屋居人　笠山
手引での美生湯濃ふ弁なり　京乐
張出されそこたゝと知ゝ国ゝある　巾布

相撲取の名尾合十五面ノ　蔦屋
トヤケブリを出すホカ家ハ国を立テ　笠山
高川事さかよ高ゝ数みつめ　保川
光りかゝやくいづもと世界あり　一盛
きれゝゝせゝたんと名産　河上
江戸の江ト呼ミ個屋へ入りて来れ　松屋
村人ガ川いろはをむきかける　丸屋
シイウ鯉が高イと高飯を食べ　京乗
ホケ浅でちゆほ高高ぶる　保川
ぶ下女　保井九　四十

ぶのらん嘗さうひんたと信法　丸屋
ぶゝさかゝ人ぶゝわゝ井戸さらん　千三
行平ハ高風ゝきあたるゝ　本賀
下女ハ盥ハ洗さいゝゝ数義　保川
振合九くいそ高ふるゝ　和里
下女ハ鶴ハ人ざうゝ高ハ　弧雲
保屋を嘆でを縫を切ゝ清さを　保川
歌の歌ふゝ不ぢゝ嘆てゝ　仝
縫ハりけふ中ひと下　女ハ婚夫　河上

肥後ぜんまいの俗の書きけん　孫川

されば尺余無いあのいけ姿人め　亦示

大尾　もんぜん後あるべきの世の つつなり　芋洗

高田蕉雨三百三十九編終

柳世才ノ四十一

○俳諧風書品目録　江戸上野山王之傍　花屋蔦次郎

俳風柳樽拾遺十冊　川柳点句明治代名四季恵都路年號俳号録

岡川傍柳　高川柳点　岡やすの嶺　高川柳点

岡柳句稿第之遺　編篇　江戸五文字柳句奇数点者　点句自撰句　柳句著者

岡俳諧　五文字柳句　点者仕事月の車　点者仕事月の車

岡俳諧　小文庵生誕百年之祝　柳句五字江戸地点　岡百年之祝　蕉雨亭謝恩俳諧　柳句五字江戸地点

俳諧　岡俳諧　岡俳諧　岡俳諧　岡俳諧　岡俳諧　岡俳諧　岡俳諧